

【概要版】

岩泉町上水道事業「経営戦略」令和5年度改定

1. 策定の趣旨

本町の水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水意識の高揚などに伴い水道料金が減少する一方、施設の老朽化の進行、施設管理費の増大が見込まれるなど厳しさを増すとともに、平成28年の台風豪雨災害の復旧による事業状況の変遷により、経営基盤の強化が求められています。

平成28年に「岩泉町水道事業経営戦略」を策定後、令和2年から上水道事業への認可替えと公営企業会計移行を行ってまいりましたが、事業状況や社会情勢の変化を踏まえ、経営戦略の見直しを行うものです。

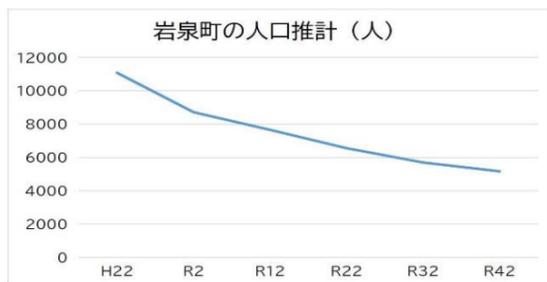
2. 計画期間

令和6年度から令和15年度までの10年間とします。



※概ね5年毎に事業の進捗状況について点検・評価を行い計画を見直します。

3. 水道事業を取り巻く環境



人口減少社会の到来

岩泉町の人口推計

H22 (実績)	11,080人
R2 (実績)	8,716人
R12 (予測)	7,655人
R22 (予測)	6,557人
R32 (予測)	5,697人
R42 (予測)	5,169人

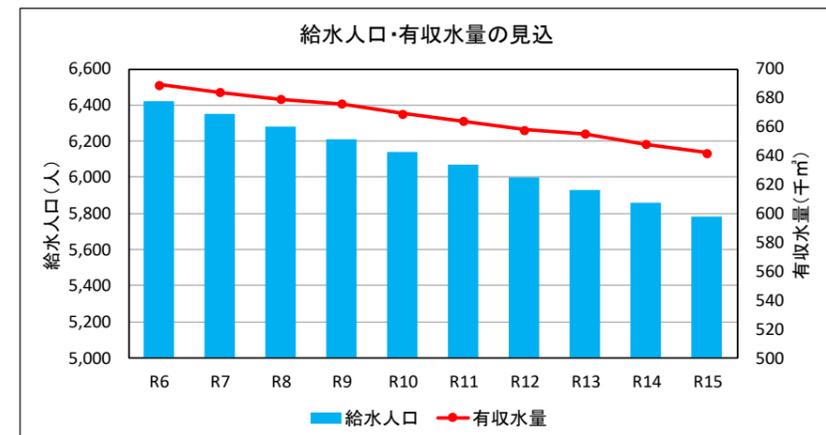
※岩泉町総合計画「岩泉町人口ビジョン」による推計値

4. 現状と課題

(1) 水需要の状況

水需要は人口減少等により年々減少しており、今後もこの傾向は継続するものと予測されます。

水需要の減少は、給水収益の減少や施設稼働率の低下につながります。



(2) 水道施設の概況

水道施設(取水・浄水・送水・配水施設)	
岩泉地区 (S31～)	龍泉洞水源(湧水)、清水川水源(湧水予備) 清水川取水ポンプ室(予備)、導水ポンプ室 ※(供用開始) 岩泉浄水場(緩速ろ過・配水池)、乙茂配水池、乙茂給水ポンプ室
二升石地区 (S55～)	松橋川水源(表流水) 導水ポンプ室、松橋浄水場(緩速ろ過・配水池)
猿沢地区 (H6～)	中倉沢川水源(表流水) 中倉浄水場(緩速ろ過・配水池)
門地区 (S43～)	見内川水源(表流水)、見内川浄水場(緩速ろ過・高区配水池) 低区送水ポンプ室、低区配水池、鴨沢送水ポンプ室、鴨沢配水池 小本川水源(伏流水・取水ポンプ) 門浄水場(急速ろ過・送水ポンプ)、配水池 泉沢川水源(表流水)、裏綿浄水場(緩速ろ過・配水池) 裏綿増圧ポンプ～2カ所、裏綿高区配水ポンプ室 穴沢高区配水ポンプ室、松石送水ポンプ室、松石配水池 馬立送水ポンプ室、馬立配水池
国境地区 (H元～)	水上沢水源(表流水) 国境浄水場(急速ろ過・配水池)
大川地区 (S52～)	大野沢水源(表流水) 大川浄水場(緩速ろ過・配水池)、大広配水ポンプ室
釜津田地区 (H8～)	浦志内沢水源(表流水)、釜津田浄水場(急速ろ過・送水ポンプ) 釜津田配水池、釜沢配水ポンプ室
小本地区 (S44～)	小本水源(浅層地下水・取水ポンプ・滅菌室)、中央配水池 豊岡送水ポンプ室～2カ所、豊岡配水池、茂師配水池
中里地区 (H4～)	中里水源(浅層地下水・取水ポンプ・滅菌室) 中里配水池
安家地区 (S48～)	清水川水源(湧水) 安家浄水場(急速ろ過・送水ポンプ)、安家配水池
有芸地区 (S53～)	犬頭沢水源(表流水) 有芸浄水場(緩速ろ過・配水池)
水道管路(導水・送水・配水管)	
総延長 L	≒170km
経過年数	40年以上 L= 42.5km 30年以上39年未満 L= 21.7km 20年以上29年未満 L= 57.7km 10年以上19年未満 L= 29.5km 9年未満 L= 18.6km
耐震管路	DIP(GX)、DIP(NS)、HPPE L= 16.5km 耐震化率 9.7%

(3) 水道施設及び管路の老朽化

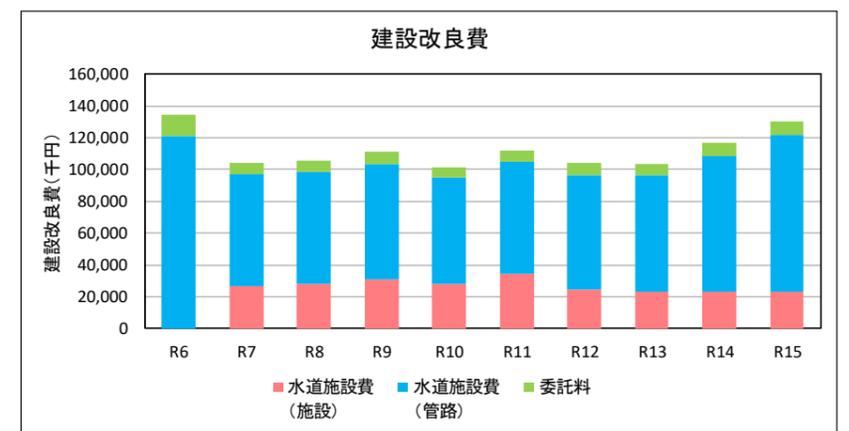
水道施設は、昭和40年代から昭和50年代を中心に建設されたものが多く、アセットマネジメント(資産管理)試算の結果、20年後には、約半数の固定資産が老朽化資産になってしまうため、更新施設の優先順位ならびに更新時期の平準化を検討する必要があります。

付随する機械・電気設備については、計画的に補修・更新および耐震化を進めており、今後は施設更新時期を考慮し継続していきます。

管路についても老朽管の更新・管路の耐震化を進めていますが、今後整備すべき老朽管が増えることが予測されるため、ペースを上げた将来の更新計画策定は急務の課題となっています。

5. 投資・財政計画

(1) 投資計画



(2) 財政計画

【国庫補助金(交付金)】

令和7年度より、水道管路緊急改善事業(補助率1/3)を計上しています。

【企業債】

継続して借り入れており、今後の施設改修においては費用負担の平準化を図り、計画的に借り入れます。

【繰入金】

総務省が定める繰出し基準に基づいた、基準内繰出金を計上しています。

6. 将来像と目標

(1) 安全【安全で安心な水道水の確保】

- ・水源の安全管理の実施
- ・原水及び浄水水質の確実な監視の継続
- ・必要水量の安定的な確保

(2) 強靱【安定した給水の確保】

- ・老朽化施設の効率的な更新の実施
- ・水道施設の耐震化の推進
- ・危機管理マニュアルに基づく計画的な訓練等の実施

(3) 持続【効率的な事業経営の実現】

- ・事業経営基盤の強化
- ・維持管理コストの削減
- ・人材の育成と技術の継承

7. 計画の進捗管理

PDCA サイクルの考えに基づき、毎年度進捗管理を行い、5年毎に見直しを実施します。

また、社会情勢・環境の変化や事業計画の変更など、状況が大きく変化した際には、計画期間内であっても再度内容を検証し、必要に応じて見直しを行います。

